

刊行にあたって

近年、歯周病などの口腔疾患が全身の健康に及ぼす影響についてさまざまな角度から研究が進められ、QOLの維持・向上に歯科医療がきわめて重要であることがあきらかになってきました。国も今後の医療提供態勢について治療から予防へのパラダイムシフトにむけて大きく舵を切り始めています。そこで歯科医療従事者の果たすべき役割の大きさが再確認され、今後ますます歯科医療従事者が活躍するフィールドが広がってくるでしょう。

そんななか、わが国は、急速に進む少子高齢化と総人口の減少という大転換期にあります。さらに、高齢者人口の増加と少子化による高齢化の加速から、国を支える生産年齢人口が激減しています。このような状況下、今後すべての業種において、人手不足に直面すると予測されています。そのため、高齢化により需要が伸びる数少ない産業である医療・福祉分野においては危機的な状況に陥ります。

歯科業界においても、人手不足の状況が年々増しており、人材確保がさらに困難になっていくことが予想されます。一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会の平成28年度調査では、歯科衛生士の就職者に対する求人人数は20.5倍に増加しています。長く人手不足が叫ばれている看護師の求人倍率3.26倍（公益社団法人日本看護協会ナースセンターによる平成28年に発表された平成26年度調査結果）と比べても歯科衛生士の人材確保のほうが圧倒的に困難な状況となっています。

これまでは、歯科医院数の増加にともなって患者数が減ったという部分にばかり目が向けられていたように思えますが、近年では、「募集を出しても応募がない」「なかなかよい人材が来ない」、「採用してもすぐに辞めてしまう」といった人材確保に関する悩みを聞く機会が増えました。そこで本書では、歯科医院の院長が、人材の「求人・採用&育成・定着」について知っておくべきポイントを整理し、歯科医院を発展させるために必要な人材確保の仕組みづくりにおいて“ガイド”となるような情報の提供を目的としています。

本書が、読者の歯科医院と求職者とのよき出会いを創造する一助となり、ひいては地域医療において生涯にわたり健康で文化的な質の高い生活を送るための口腔の健康維持に少しでも寄与できれば、私たち編集委員にとって望外の喜びです。

2018年1月
編集委員代表 廣田祥司